

U.S. Indicators

発表日: 2021年5月24日(月)

米企業景況は5月に一段と改善し過去最高を更新

～経済成長の加速を示唆～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (TEL: 03-5221-5001)

21年5月のIHSマークイット米国総合購買担当者指数(PMI)の速報値は、68.1と前月比4.6%p上昇し、統計の作成が開始された09年以降の最高水準を更新した(拡大縮小の分岐点50)。企業活動が一段と活発化している。製造業が61.5と前月比1.0%p上昇したほか、行動制限緩和の影響を大きく受けたサービス業が70.1と前月比5.4%p上昇し、ともに過去最高を更新した。また、先行きを占ううえで重要な新規受注が67.4と過去最高となっており、少なくとも数カ月は企業活動が好調を維持することを示唆している。ワクチン接種の進展や規制による新型コロナウイルスの感染拡大ペース鈍化を背景とした行動制限の緩和によって、経済成長が加速していることを示唆している。

なお、速報値は集計期間が5月12日～20日のため、5月中旬にかけての企業の状況を示しており、行動規制の緩和によって5月下旬に一段と改善していると考えられることから、確報値で上方修正されると見込まれる。

製造業PMIの構成項目をみると、雇用が53.3(前月55.7)と低下した一方、生産が58.1(前月57.2)、新規受注が65.3(前月61.6)、在庫が55.5(前月52.3)と上昇し高い水準となった。寄与度では雇用が前月比▲0.49%pの押し下げ寄与となった一方、新規受注が前月比+1.10%p、在庫が前月比+0.32%p、生産が前月比+0.24%p、入荷遅延が前月比+0.22%pの押し上げ寄与となった。また、構成項目以外では輸出受注が56.7(前月56.2)と高い水準を維持しており、グローバル経済の回復を示している。さらに、受注残は63.6と過去最高となるなど、内外の需要の強まりを示している。

サービス業では、雇用が54.6(56.9)と低下した一方、活動指数が70.1(前月63.1)、新規受注が67.8(前月63.2)と上昇した。また、見通しを示す「将来の活動指数」が72.2(前月71.0)と高い水準に上昇しており、企業が先行きに対する楽観的な見方を一段と強めている。

雇用に関しては、製造業、サービス業ともに企業活動が活発化するなかで、雇用の増加ペースが鈍いことを示しており、5月も雇用の伸びが抑制される可能性が高いことを示唆している。

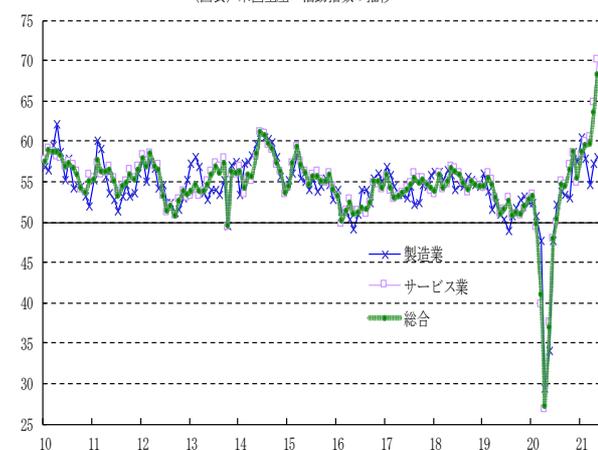
インフレ面では、製造業、サービス業ともに算出価格指数が過去最高に上昇しており、インフレ圧力がさらに強まっていることを示している。

(図表) 米国購買担当者指数 (PMI) の推移



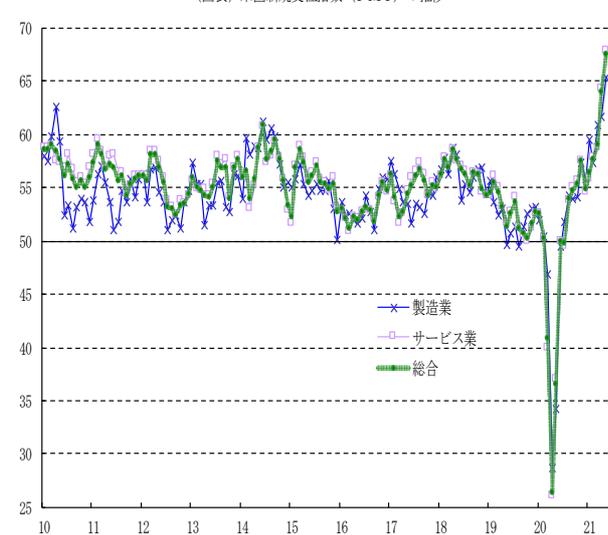
(出所) IHS Markit

(図表) 米国生産・活動指数の推移



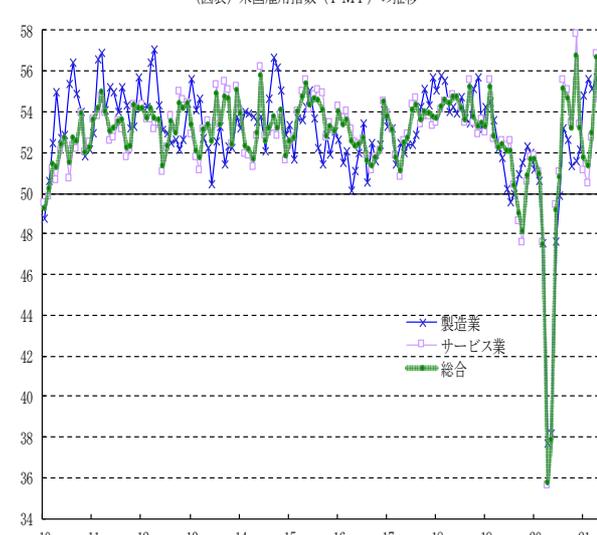
(出所) IHS Markit

(図表) 米国新規受注指数 (PMI) の推移



(出所) IHS Markit

(図表) 米国雇用指数 (PMI) の推移



(出所) IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

